

2019 年度(令和元年度)
事業報告書

学校法人 新島学園

目次

1. 学校法人の概要	2
(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4
2. 事業の概要	
(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	14
(3) 中学校・高等学校	20

1 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

新島学園の名前は新島襄に由来し、「新島襄先生の人格をきん慕し、その遺風を顕彰しキリスト教精神を基本とする徳育を施し、品性高潔な国家社会に有用の人材を育成する」こととしている。

担う使命として、新島襄先生の教育理念に基づき「一国の良心ともいうべき人物を育てる」を掲げ、また、「一年の計には穀を植え、十年の計には木を植え、百年の計にはすべからく人材を養え」との創設者の想いを基としている。

② 教育理念

・中学校・高等学校「教育5原則」

- 1) キリスト教精神を教育の基とする
- 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
- 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

・短期大学「教育モットー」

- 1) 真理：自分の使命を探求すること
- 2) 正義：信念に基づいた行動力を持つこと
- 3) 平和：相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

- 1947年5月 新島学園中学校（男子校）開校
- 1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行
- 1951年3月 学校法人に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更
- 1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする
- 1971年3月 新島学園高等学校、新島学園中学校に改める
- 1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学
- 1986年4月 新島学園法人本部設置
- 2002年4月 高等学校、中学校を併設型に改組
- 2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする
国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置
- 2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況 (2020年5月1日現在) (単位:人)

学校名		入学定員	収容定員数	現員	摘要
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	130	245	268	
	コミュニティ子ども学科	50	115	84	
新島学園高等学校		200	600	708	
新島学園中学校		200	600	543	

(5) 役員の概要

(2020年5月1日現在)

定数 理事12人以内、監事2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任	再任	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	2008年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	2015年4月1日	2019年4月1日	短期大学学長
理事	古畑晶	常勤	2019年4月1日		中学校高等学校校長
理事	石井博明	常勤	2014年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	八田祥孝	常勤	2015年4月1日	2017年4月1日	評議員選出
理事	江守秀夫	非常勤	2011年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	児玉實英	非常勤	2004年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	2009年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	静朋人	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	平松讓二	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
監事	小瀧秀夫	非常勤	2019年4月1日		
監事	島津文弘	非常勤	2008年9月30日	2016年9月30日	

(6) 評議員の概要

(2020年5月1日現在)

定数 25 人以内

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
小林 俊 哉	法人職員	小林 士 郎	学識経験者
須 川 裕	法人職員	風 岡 優	学識経験者
新 井 和 明	保 護 者	外 所 正 明	学識経験者
本 木 毅	保 護 者	南 都 隆 道	学識経験者
櫻 井 雅 寿	保 護 者	八 田 祥 孝	学識経験者
下 城 郁 雄	卒 業 生	藤 口 光 紀	学識経験者
田 中 美 香	卒 業 生	細 谷 可 祝	学識経験者
湯 川 嘉 昭	卒 業 生	松 本 政 之	学識経験者
丸 岡 え み	卒 業 生	有 馬 平 吉	学識経験者
立 見 賢 治	卒 業 生	小 堀 良 夫	学識経験者
天 田 清之助	学識経験者	半 田 充	学識経験者
大 橋 達 久	学識経験者	三 宅 豊	学識経験者
金 子 仁	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2020年5月1日現在) (単位：人)

区 分		短期大学	高等学校	中学校	本 部	合 計
教 員	本 務	17	34	29	0	80
	非常勤	51	17	12	0	80
職 員	本 務	15	6	3	4	28
	兼 務	4	1	1	0	6
合 計		87	58	45	4	194

新島学園法人本部 2019 年度事業報告

分 類 1) 伝統を守る (原点の確認)

実施項目 ①活発な運営体制の構築

- ・理事会、評議員会の運営
- ・理事、評議員との情報交換の場確保
- ・理事/評議員研修会
- ・法人本部機能強化

□当年度目標

- ・理事会年 6 回、評議員会年 3 回開催を予定。評議員会運営に係る要望について検討
- ・理事/監事/評議員情報交換会の 5 月開催を予定
- ・研修について積極的に取り組む。コンプライアンスに係る研修会を予定
- ・2019 年 1 月 7 日公表「学校法人制度の改善方策」の詳細把握に努め対応方検討

○実施状況

- ・理事会 6 回、評議員会 3 回開催。刑事事件の発生を受け臨時理事会 2 回開催。
- ・「理事/監事/評議員の情報交換会」を 5 月に開催。貴重な時間を得たが、他組織の総会等とも重なるためか、参加者が減少傾向にあり、今後、検討が求められる。
- ・11 月に「合同研修会」を開催。私立学校経営に実績があり、また、私立学校法に詳しい講師を招き、「改正私立学校法」について講演を頂いた。限られた時間ではあったが、今次改正の背景等を含め、詳細に説明頂いた。
- ・法人本部機能強化の一環として、10 月から、出向受け入れにより、総務課長を新たに配置した。
- ・刑事事件の発生に対応するため第三者委員会を設置し、その連絡調整を行った。また、関連する取材等に関しての対応窓口となった。
- ・私立学校法の改正を受け、本学「寄附行為」の改正を行った。
- ・事務長会議を開催し、円滑な法人運営に向け、情報共有を図った。また、計画的な研修について、課長職を中心に、共通認識形成のための取り組みを行った。

■全体的な評価＝B (目標達成又は効果あり)

■今後の課題

- ・今時の新型コロナウイルス等不測の事態に備えた、会議システムの構築。

実施項目 ②盤石な財政運営基盤の構築

- ・持続的発展に向けた財政のあり方検討

- ・ファンドレイジングの活用
- ・効率的な資産運用検討

□当年度目標

- ・生徒及び学生の募集については、中高/短大を第一義的に進めるが、学園全体の広報周知についての戦略を引き続き検討する。
- ・ファンドレイジングについては学園内での情報共有を図り、更に、広く周知を行う。
- ・資金運用について、2018年度で整えた「一任運用」を行うこととし、また、これまでの「債券運用」にも取り組む。
- ・現在、新島学園グランドデザイン 2027 短期大学検討委員会が動き出しているが、その中で、求められる教育環境整備に向け、必要事項を整理する。
- ・他部門の NGGD2027 検討委員会の設置に向け、協議を進める。

○実施状況

- ・学校運営に係る収入の根幹をなす、生徒・学生の募集について、中高、短大ともに一定の生徒学生の入学者を得た。
- ・ファンドレイジングについては、引き続き実施しているが、応募者が縮小してきているため、今後の対策が課題となっている。
- ・資金運用について、一任運用を開始した。元金戻りの多い投資信託については、売却を進めた。
- ・NGGD2027 中高検討委員会を設置した。
- ・計画的な財政運営の観点から、今後の資金需要予測（必要となる金額・必要となる時期）については、とりまとめを得るに至らなかった。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・中高/短大の NGGD2027 を活用し、改正私学法に基づく、中期計画（2021-2025）の策定。

実施項目 ③キャンパス施設設備整備計画の構築

- ・安心安全な教育環境確保

□当年度目標

- ・NGGD2027 短期大学検討委員会について、継続して協議を進める。
- ・他部門の同委員会立ち上げに向け、協議を進める。
- ・委員会での協議を通じて得られた「施設整備」については、資金確保面からの検討を踏まえ、ロードマップの作成を行う。

- ・短大木造校舎耐震対応として予定する新校舎の建設を促進する。
- ・中高部活室整備に向け、検討を進める。
- ・中高周辺用地の調査を継続して実施する。

○実施状況

- ・短期大学においては、木造校舎耐震対応として、新たな木造校舎の建設に着手したが、目標とした、2019年度内の竣工は叶わなかった。
- ・今後の教育のあり方を協議するための NGGD2027 短期大学検討委員会において、建学の意図を振り返るとともに、今後を見据えた議論が行われた。
- ・中高においては、第2回理事会に際して、中学校高等学校の部活動室を始め、校舎等も現認いただき、状況を確認した。
- ・中高施設整備に係るロードマップの取りまとめには至らなかった。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・改正私学法に基づく、中期計画（2021-2025）の策定を進める中で、中高／短大の NGGD2027 を活用し、建学の精神を確認し、将来を見据えた教育環境の取りまとめ

実施項目 ④新島ファミリー&新島コミュニティとの連携

- ・同窓生との連携
- ・地域/理解者との連携

□当年度目標

- ・中高各地区根笹会への積極的な参加を継続する。
- ・中高同窓会本部及び短大同窓会本部との情報交換を積極的に進める。
- ・同窓生を包括するコミュニティ形成を目指し、イメージするコミュニティの具体的な内容を整理し、議論の提起を行う。
- ・学園全体の「後援会づくり」について、引き続き検討する。

○実施状況

- ・各地区根笹会については、伊勢崎佐波地区、安中地区、桐生地区、高崎地区、前橋地区、富岡かんら地区が開催された。なお、東京根笹会は事件の発生を受け、開催を取りやめることとなった。
- ・伊勢崎佐波地区と安中地区については、都合により、欠席させて頂き、3年ぶりの開催となった桐生根笹会、毎年開催の高崎地区、前橋地区及び富岡かんら地区については、理事長以下所属長が出席。
- ・中高本部同窓会の総会については、理事長以下出席。同様に、短大の同窓会総会に

については、理事長以下所属長が出席。

- ・中高同窓会本部及び短大同窓会との情報交換を積極的に行い、連携を強化した。
- ・同窓生を包括するコミュニティの形成については、情報収集にとどまった。
- ・短大の後援会については、関係者の尽力により、拡大が図られた。
- ・短大父母の会、同窓会とは、短大の施設整備委員会（各代表が委員参加）を通じ、情報交換が進み、連携が強化された。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・中高同窓会「根笹会」、各地区根笹会、短大同窓会、同父母の会及び後援会との連携深化

実施項目 ⑤心身のケア及び労務管理の整備

- ・心身のケア
- ・教職員の待遇検証
- ・健康管理の充実
- ・執務環境のあり方検証

□当年度目標

- ・生徒／学生の心身ケア充実に向け、取り組みを継続。
- ・教職員の待遇（勤務体制／給与環境）に関して、引き続き検討し、求められるべき対応を整理する。
- ・教職員の健康管理として実施している健康診断等の積極的な活用とストレスチェック等の的確な運用を行う。
- ・2019年4月1日から適用される「年次有給休暇の時季指定義務」について、制度の趣旨に添い、適切な運用を行う。

○実施状況

- ・これまで取り組んできた「健康診断」や「ストレスチェック」を実施。
- ・刑事事件の発生を受け、中高の生徒や教員のケアを図るため、群馬県や短期大学の協力を得て、スクールカウンセラーを確保、相談場所の確保を行い、対応した。
- ・働き方改革に伴い、義務付けともなった「有給休暇の取得」、或いは、制度改正の説明会に積極的に参加し、求められる対応について検証。
- ・法制度の改正、或いは、指針等により環境整備が求められた規程の整備を行った。育児／介護休業、ハラスメント防止、健康情報管理、中学校高等学校学則改正（授業時数の減、土曜休業）、関連する諸規程等。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・心身のケアについて更なる充実
- ・教職員の待遇改善

実施項目 ⑥防災/危機管理対策の充実

- ・既定マニュアル等の再確認
- ・運用の習熟

□当年度目標

- ・既定の危機管理マニュアル等により、所要の訓練等を実施する。
- ・訓練を通じ、マニュアルの習熟を図る。

○実施状況

- ・制度化し、これまでも取り組んできた「避難訓練」等を継続して実施。
- ・10月12日に接近した台風19号の影響については、中高/短大とも、安全を確保した上で状況確認を行った。中高においては、本校舎と礼拝堂の間を流れる「中宿堰」から、少しの越流が確認されたが、短大においては、被害等は発生しなかった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月2日以降の「休校要請」を受け、中学校高等学校においては、春期休業開始日までの間、休業することとなった。
- ・中学校高等学校の卒業式は、出席者の数を絞り、式の中身も大幅に縮小して実施し、短期大学の「卒業証書学位記授与式」も、短期大学内の教室でゼミ単位での授与となった。
- ・また、既に制定されている「危機管理規程」では、「犯罪」や「感染症」も危機事案として位置づけている。実質的な対応はとられていたが、規程に則ったものとなっていなかったことは、今後の課題として残った。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・これまで経験のない、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、遠隔授業に対応する仕組みや環境の整備

分 類 2) 伝統を活かす（新しい価値の創造）

実施項目 ①学校法人100%出資の子会社の設立検討

- ・学校法人出資子会社の活用検討

□当年度目標

- ・調査により得られた検証事項を基に検討を進めるプロジェクトの設置を予定。

○実施状況

- ・10月10日（木）、学校法人の100%出資子会社に多くの実績を持つ会社から担当者の来訪を得て、協議を実施。
- ・合わせて、既に実施している他の学校法人の関連資料を収集。
- ・なお、当初予定した「プロジェクト」の立ち上げには至らなかった。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・NGGD2027での検討を含め、中期計画への位置付け

実施項目 ②ブランド力の強化

- ・新島のイメージ確立
- ・情報発信

□当年度目標

- ・2016年度に定めた「学園章」を基に、バッジを制作し、教職員で着用。
- ・創立70周年を前面に出したホームページのデザインを変更。
- ・CI（コーポレートアイデンティティ）の推進に向け、第一弾としてVI（ビジュアルアイデンティティ）の構築を目指す。
- ・NGGD2027の検討を進める中で、MI/BIについても検討を行う。

○実施状況

- ・2016年度に定めた「学園章」を基に、バッジを制作し、全教職員に配布するとともに、理事、監事、評議員及び顧問にも配布。
- ・創立70周年を前面に出したホームページのデザインを変更。
- ・2017年度より、ブランド力強化の一環として、CI（コーポレートアイデンティティ）の導入に着手し、理念の統一と理解、行動理念の統一と視覚イメージの統一と理解に向け、検討を進めるが、具体的なとりまとめには至らず。
- ・サイン（施設のみならず、新島学園、中高／短大）の表記統一感の確保に向け、検討を進めた。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・ NGGD2027 での検討を含め、中期計画への位置付け

実施項目 ③100周年に向かって

- ・ NGGD2027 に示す将来像に向けての具体策検討

□当年度目標

- ・ 各部門における NGGD2027 検討委員会の設置を目指す。〔再掲〕
- ・ 寄附金制度の充実について継続して研究を進める。〔再掲〕

○実施状況

- ・ NGGD2027 短期大学検討委員会を継続して開催し、検討を進めた。
- ・ NGGD2027 中学校高等学校検討委員会の規程整備を進め、委員会を立ち上げた。なお、内部でも、既に、関係の協議を進めている。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・ 中期計画（第五次中期経営計画）への反映

実施項目 ④ガバナンスの充実

- ・ 事務職員の能力向上と研修の拡充
- ・ 現行規程の見直し

□当年度目標

- ・ OJT について、継続して実施。
- ・ 法制執務、労務管理、財務等の専門研修の導入について、引き続き検討。
- ・ 関連機関主催の研修会への参加を推進する。
- ・ コンプライアンスに係る研修会の開催を予定。
- ・ 現行規程については、継続して見直しを進め、所要の改正を行う。
- ・ 上位法等改正への対応として、改正情報等の早期取得と早期対応を行う。

○実施状況

- ・ 事務長会議を開催。
- ・ OJT について、引き続き実施。
- ・ 中高におけるコンプライアンス研修は、10月に、学校法人同志社から講師に招き、実施。
- ・ 一連の法改正に伴う説明会等については、積極的に参加。

群馬労働局主催の働き方改革関連法

私立学校法の改正関連

危機管理対応関連

- ・私立学校法の改正に伴う、本学園の「寄附行為」の一部改正実施
- ・顧問社会保険労務士の協力を得て、労働環境について見直し着手
- ・現行規程の見直しについて、継続して対応。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝C（効果不十分）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・意識の徹底と継続した取り組み

実施項目 ⑤情報発信力の強化

- ・広報活動戦略の検討

□当年度目標

- ・本部広報センター機能の充実〔継続〕
- ・4月1日発行の上毛新聞に15段の広告を掲載する。
- ・ホームページの内容充実。
- ・新たなデザインの名刺、封筒を作成。
- ・中高本校舎壁面広告のデザインを変更して、継続実施。「木を育てる。」

○実施状況

- ・中学校高等学校本校舎壁面にデザインを変更して広告を掲載。「木を育てる。」
- ・名刺、封筒等のデザインを変更
- ・4月1日発行の上毛新聞に15段の広告を掲載。
- ・2015年6月18日の初回から、本年4月まで継続して計6回掲載（2017年は2回）し、この間、新聞広告「企画賞」1回、「デザイン賞」等4回を受賞した。
- ・特に本年4月の広告は、これまで70周年のテーマでシリーズ化していたものを、NGGD2027で掲げた「木を育てる」を前面に出す形となったことが、シリーズとの対比を踏まえ、高い評価を得た。

■全体的な評価＝B（目標達成又は効果あり）／＝E（継続実施）

■今後の課題

- ・少子化、或いは、不測の出来事を踏まえ、新たな目線での情報発信

〔評価区分〕

A＝効果大

B＝目標達成又は効果あり

C＝効果不十分

D＝未実施・未着手

E＝継続実施

新島学園短期大学 2019 年度事業報告

<活動計画と実施状況>

基本方針 1 キリスト教精神に基づく教育・支援を展開する

活動計画	<p>週1回のチャペルアワーの時間を、学生が自己の人生を考える時間として位置づけ、聖書を題材としつつも、学生のこれからの人生と関連付けられる要素を充実させていく。</p> <p>「わかちあいカフェ」や「サマーキャンプ」など、キリスト教の活動を大学全体の活動として位置づけ、多くの学生が参加するよう配慮していく。</p> <p>新島文化研究所の在り方を検討し、中高とも連携しながら再構築を図っていく。</p>
実施状況	<p>週一回行われているチャペルアワーの時間を学生が人生を考える時と位置づけ、聖書の記述と実生活、将来の生き方との結びつきを意識した。チャペルアワーについては、キリスト教必修科目との関連から強制的な要素も多少あるが、前期の皆勤者が例年に比べ大幅に増加した（CD1年生95名、2年生15名 CC1年生18名）。</p> <p>昨年は参加希望者がほとんどいなかったため中止となったサマーキャンプも、今回は参加希望学生が15名いたので実施することができた。</p> <p>分かち合いカフェについては、これまで3回実施し、集まった募金を豪雨被災地支援のために送金した。</p> <p>新島文化研究所の活動としては「上毛教会月報を読む会」を7月と10月に開催した。また、中高より星野教諭が研究員として異動し、研究活動を開始した。</p>
振り返り	<p>チャペルアワーに参加して有意義だったと回答した学生は</p> <p>CD 学科 2019年3月時点 63%に対して2020年3月では63.5%と微増</p> <p>CC 学科 2019年3月時点 21.5%に対して2020年3月では18.8%と減少となっている。CC 学科学生に対するヒアリングでも、保育者養成とキリスト教主義教育の関連性が感じられず、礼拝の有用性が理解できていない状況がうかがわれた。</p> <p>C C 学科教員と一緒に、対策を協議していきたい。</p>
評価	C = 効果不十分

基本方針 2 学生等関係者の状況を正確に理解する

活動計画	受験生の本学に対する評価や、本学入学までのプロセスを把握するため、オープンキャンパス参加者、新入生に対してアンケートを実施し、改善策につなげていく。
	学生の満足度とその要因を把握するため、二年生に対して学生生活に関するアンケートを実施し、改善策につなげていく。
	本学非選択の状況を把握するため、オープンキャンパスに参加したが受験に至らなかった受験生や、合格したが入学しなかった受験生に対してアンケートを実施し、本学に必要な強化要素を把握する。
	企業等、本学の卒業生の就職先に対してアンケートを実施し、求人に関するニーズや、本学卒業生に対する評価を把握する。
実施状況	新入生にアンケートを実施した。両学科とも本学受験のきっかけは高校の先生の勧めとなっている。また本学の魅力については、CD 学科では編入実績、就職実績、コース制、CC 学科では幼・保の両免許取得、コース制、キリスト教となっている。
	2 年生に対して満足度調査を実施した。満足度を端的に示すものとして「先輩から新島短大入学について相談されたら、入学を勧めますか」という質問に対しての回答は以下のとおりであった。 CD 学科 勧める 80 名、勧めない 28 名 CC 学科 勧める 17 名、勧めない 13 名 また卒業時点での 2 年間の総合満足度は以下のとおりであった。 CD 学科 とても満足している 37%、まあ満足している 49.3% CC 学科 とても満足している 6.3%、まあ満足している 68.8%
	非受験者、非入学者調査を 3 月に実施した。
	就職先の企業等に本学卒業生に対する評価を把握するためのアンケートを 43 社 32 園に実施した。
振り返り	非受験者、非入学者調査で、他の大学を選択した理由として一番多かったのは、四年制大学の方が就職に有利というものであった。コメントにも、四大だったら入りたかったというものがあつたが、四大とは違う、短大としての就職の強さを更にアピールしていきたい。 就職先の卒業生に対する評価は積極性、勤勉、礼儀等は良いが、提案力（CD 学科）、保護者関係力（CC 学科）は不十分なものとなっている。
評価	B = 目標達成又は効果あり

基本方針 3 教育力、研究力、職員力の向上

活動計画	各コースの想定している卒業後の進路や働き方に対応した、特色あるコース別プログラムを策定していく。
	FD 研修を積極的に行い、教員の授業力の向上を図る。
	学生の成長支援を効果的、効率的に行えるようにするための整理、統合を行い、授業科目の体系化を図る。
	研究時間の確保や財政支援などの研究支援策を検討する。
	SD 活動を積極的に展開し、職員の企画力や業務遂行力の向上を図る。業務の効率化、合理化についても積極的に推進する。
実施状況	グローバルキャリアコースの国内留学や、ビジネスキャリアコースのビジネスプランコンテストへの応募など、新しい取り組みが始まった。
	授業力向上そのものに関しての研修は実施できなかったが、能動的授業の研修に教員 2 名が参加した。
	CD 学科では情報関連科目について、専任教員を中心とした組み換えを行い、非常勤の担当時間数を整理した。また資格取得科目についても実情を見て取捨選択を行った。
	CC 学科ではコース名称の一部変更を行い、学ぶ内容がより明確になるようにした。
	全体の研究紀要を年 1 回、コミュニティ子ども学科はそれと別に学科の研究紀要を年 1 回発行し、多くの教員が寄稿している。また、これまでなかった、外部資金を獲得、申請する教員も出てきている。
短大経営という視点を教職員共に持ってもらうため、私学事業団の私学経営情報センターの担当者を講師に招いて、SD 研修を実施した。職員は担当業務の研修や高等教育政策の動向に関する研修に積極的に参加した。	
振り返り	<p>教育力に関しては、学生による授業評価が殆どの項目で 5 段階評価の 4.0 以上となっていて、数値は 2018 年度に比べ改善されている。ただし、まだ座学のみでの学習といった授業比率は高いので、能動的、双方向の授業比率を高める努力が必要である。</p> <p>研究面に関しては、編入や就職支援など学生への支援に費やす時間が増え、研究時間が確保できない状況となっているため、次年度より研究日を設定し研究時間の確保を図ることとなった。</p> <p>電子決済など、事務局業務の改善に関しては十分に取り組めなかったので、2020 年度に取り組んでいきたい。</p>
評価	B = 目標達成又は効果あり

基本方針 4 学生生活の支援を強化

活動計画	学生の課題や成長度合いを明確にし、効果的な支援策を策定していく。
	補助金の活用も含め、学生に対する経済的な支援体制を充実させる。ワークスタディを導入していく。
	新校舎の建築、本館のエレベーター設置など、快適な学習環境の整備を引き続き行っていく。ICT環境についても、補助金を活用するなどして整備を図る。
実施状況	学習支援委員会を立ち上げ、アンケートを実施し学生の学習実態を把握し対応策を検討しているが、マンパワーの問題もあり、体制づくりには至っていない。
	中距離から通学する学生に対しての交通費支援を検討したが、実施に際しての管理等の課題が解決されず、継続検討となった。
	新校舎に関しては建築が進み、2020年5月に竣工予定。学生用のコンピューターに関しては、入れ替えを実施した。エレベーターについては、これまで先送りしてきた変電設備の交換や、法規の変更に伴う既存校舎の窓補強等、追加の支出があったため、次年度に繰り越すこととなった。
振り返り	学習面と経済面の支援に関して具体的な対応ができなかったため、補助金の活用も視野に入れて次年度は実施していく。
評価	C=効果不十分

基本方針 5 卒業後の進路支援体制の強化

活動計画	授業やガイダンス等のキャリア教育プログラムを点検し、漏れや重複をなくし、体系化を図る。
	企業や幼稚園、保育所等、学生の就職先との関係性を構築し、相互理解と協力体制の構築を図る。
	外部資源の活用も視野に入れて、編入指導体制の充実を図っていく。
	学生のニーズ等を踏まえ、新たな編入指定枠の獲得を図っていく。
実施状況	CD学科では就職ガイダンスを授業化した。また、ビジネスマナー関連の科目を整理し、指導の漏れや齟齬を防止する変更を加えた。
	これまで行ってきたビジネスインターンシップ、社長の抱持ちプログラムに加えて、群馬県中小企業家同友会と連携し、本学の授業において経営者の講話を6回実施する試みを今年度より開始した。CC学科では、授業にお

	<p>いて幼稚園等で学生が劇や演奏などの発表を行う取り組みを実施したほか、地域のふれあいサロン等での活動に協力した。</p> <p>編入実績は、国公立は群馬大学 20 名、高崎経済大学 11 名となっている。昨年に比べ編入希望者が 7 割程度であることを考えると、率としては良い結果となっている。編入指導に関しては、新規の教員の参加もあり、内部の指導体制は昨年に比べ、充実したものになってきている</p> <p>神田外語大学と埼玉工業大学心理学部に指定枠の設定を依頼した。埼玉工業大学については、2020 年度からの運用で話を進めている。</p>
振り返り	<p>就職状況（就職率 CD98.6%、CC100%）、編入状況とも良好であった。社会人を養成する授業等の取り組みも、徐々に体系化されてきている。学生の就職サポートに関する満足度については、CD 学科は向上しているが、CC 学科は低下しているので（CD69.9%⇒70.3%、CC47.5%⇒31.3%）次年度、対応策を講じる必要がある（2020 年度からの職員増強は対応済み）。</p>
評価	B = 目標達成又は効果あり

基本方針 6 学生募集の効果的な仕組みをつくる

活動計画	<p>学長をリーダーとする学生募集プロジェクトチームを編成し、募集の企画と実施にあたる。</p> <p>本学が与えることのできる価値を、効果的に発信することでさらなる入学者の増加を図る。定員超過率や現状の募集状況を踏まえ、入学者数の目標を CD 学科 145 名、CC 学科 55 名の計 200 名とする。</p> <p>キャリアセンターと入試室を実質的に統合し、出口を踏まえた入り口の広報活動を展開する。</p> <p>オープンキャンパス以外の広報イベントについても、積極的に企画し、実施していく。</p>
実施状況	<p>広報担当職員 2 名が新しくなったので広報のポイントについて研修を実施した。それに基づき高校教員、受験生、社会に対しての情報発信を積極的、かつ多様な方法で行った。</p> <p>学生募集状況の現状と今後の動向を考え、入学定員をキャリアデザイン学科 15 名増、コミュニティ子ども学科 15 名減とした。志願者は過去最高となったが、CD 学科の一般 I 期入試で昨年の倍近くの 123 名の志願があり、後の入試に備えて半数近くを不合格としたが、II 期、III 期が予想より志願者が少なく、結果は 140 名の入学者となった。CC 学科はターゲット校を選定し、そこに集中した広報を行うなどして、昨年を少し上回る 37 名の入学者とな</p>

	<p>った。</p> <p>キャリアセンターと入試室の統合を考えたが、物理的に同室とすることができず、引継ぎもかねて学務課長（前入試室長）と連携しての活動となった。</p> <p>初めての企画として、6月の「高校生のためのキャリアデザイン講座」と8月に「子どもフェス」を実施した。</p>
振り返り	<p>CD学科一般入試の受験動向が正確に予測できず、優秀な入学予定者を得ることができなかったことを踏まえ、高校の進路担当教員とのきめ細かな情報交換を行う必要がある。CC学科は、全国的に保育分野が不人気となっているが、少人数という特性を生かしたプログラムをさらに充実させ、強力にアピールしていきたい。今年初めて行った2つの企画については、準備期間が短かったこともあり、ターゲットとした高校生の集客は今一歩であったが、高校側や地域からは評価の言葉もいただいた。</p>
評価	B = 目標達成又は効果あり

基本方針7 地域社会とのつながりや支援組織の強化を図る

活動計画	<p>草津町観光協会との連携プログラムについては、引き続き実施し、その成果を発表していく。</p> <p>新規の地域連携の取り組みを準備し、実現に至らせる。</p> <p>意見交換会の開催など、父母の会と大学との連携をさらに強化していく。</p> <p>財政基盤の確立の一つとして、後援会組織の拡大を図る。</p>
実施状況	<p>草津町観光協会との連携プログラムは11月に実施し、その内容を学内で発表するとともに、高崎市の地域連携事例発表会でも報告を行った。</p> <p>新しく、みどり市と連携し、学生による政策提言のフィールドワークを8月に実施し、同市庁舎において報告会を行った。</p> <p>父母の会との連携は、12月の大学祭でのバザー実施と、新校舎建設への要望等の聞き取りを行ったが、意見交換会の開催には至らなかった。</p> <p>後援会役員の方を通じて、また大学と新規取引を開始した会社等に後援会入会の勧誘を行い、会員増強に努めた。</p>
振り返り	<p>自治体等との連携に加えて、大学近隣との関わりとして、北公民館での学生ボランティアや「ふれあい広場」への学生参加など、新たな取り組みが始まったので、この点についてもさらに進めていきたい。父母の会との意見交換会については、2020年度に実施していきたい。</p>
評価	B = 目標達成又は効果あり

新島学園中学校高等学校 2019 年度事業報告

方針1 キリスト教精神に基づく新島襄の教育の心をグローバルな視点で育成する
総合評価：B（目的達成又は効果あり）

1-1. 「他を思いやる心」「感謝の心」「愛の実践」する生徒の育成

◇日々の礼拝。5/7（火）開校記念講演（卒業生 有馬平吉先生）を実施。

1-2. 生徒に新島学を教える

◇中学の3年間でJOEプログラムを実施。中1「新島襄」、中2「新島襄100問」、中3「新島襄と建学の精神」を読ませ、新島襄の生き方と、みずからのキャリア、人生について考えさせている。

1-3. 音楽・芸術活動の見直し

◇生徒礼拝で聖歌隊だけではなく管楽アンサンブル部、弦楽団の奉仕も増やした。

◇クリスマス礼拝のハレルヤコーラスに向け、オーケストラ編成の活動を開始。

◇生徒コンサート、高校音楽選択者向けの発表会など、発表の機会を多くするようにしている。

☆生徒礼拝、クリスマス礼拝のハレルヤコーラス、生徒コンサート、高校音楽選択者向け発表会を予定通り実施し、生徒の演奏の場を増やすことができた。

☆コンサートを学校全体、或いは、地域にもより一層宣伝し、多くの方々に聴きにきてもらうのが課題。来年度はオーケストラ演奏の場も増やす予定。

方針2 戦略的取り組みにより全員参加で臨み、生徒募集目標〔中学180名入学、高校240名以上（含む内部進学）入学〕を達成し、堅持する

総合評価：B/C（成果不十分）

2020年度入学者 中学170人 高校228人

昨年の刑事事件の影響か、応募人数が減少するが、最低のラインを維持する。

2-1. 高校入試の強化

◇昨今の入試改革に伴い全国的な一般入試が難化し、指定校推薦志望者の著しい増加が予想される。その結果、早慶はおろかSMART-CHでさえ難化してきており、指定校推薦志向に拍車がかかっている。同志社大学36枠を持つ学園は有利になってきていると言える。その点を中学入試、高校入試双方について説明会等でアピールしている。高校入試に関しては、高校からの入学者の成績ゾーンが「同志社大学指定校推薦選抜者ゾーン」とほぼ同じであるという統計的説明を行っている。また、部活動に専念しながら同志社をはじめとする難関・準難関大学への進学が可能であるという点も県内

の公立との差別化できる点でありアピールしている。

☆受験者数 108名 昨年度134名 (学業推薦-5、スポーツ推薦-4、奨学生単願-1、奨学生併願-16)

2-2. 高校定員増(200人→240人)

◇古畑校長が県の学事法制課と話した結果、現時点での定員増はかなり困難であるとわかった。

2-3. 中学入試と高校入試の狙いの明確化

◇中学入試強化について

- ・今まではライバル関係にはならなかった公立中高一貫校と併願、あるいは同じ土俵で検討する可能性が高まっている。四ツ葉や中央中等の受験者が多く通う「うすい学園」「能開(A X I S)」に新島学園を公立中高一貫校の併願校として志望するような進路指導をお願いし、必要に応じ学園の説明会も行っている。
- ・昨今の入試改革に伴い全国的な一般入試が難化し、指定校推薦志望者の著しい増加が予想される。その結果、早慶はおろか SMART-CH でさえ難化してきており、指定校推薦志向に拍車がかかっている。同志社大学36校を持つ学園は有利になってきていると言える。その点を説明会等でアピールしている。
- ・各地区説明会ではPTAの保護者による生の声を来場者に伝えている。

☆中学AO入試 受験者 142名 (昨年度 172名)

中学第1回入試 受験者 101名 (初回39、AO再62)

昨年度受験者 145名 (初回59、AO再86)

中学第2回入試 受験者 25名 (昨年度受験者 50名)

2-4. 教職員、PTA保護者、根笹会・同窓会の生徒募集参加意識の向上

◇各地区説明会をPTAの協力のもと行っている。各地区説明会ではPTAの保護者による生の声を来場者に伝えている。特に安中地区説明会では生徒の生の声を聞いてもらい、よい反応をいただいている。

2-5. 小学4～6年生対象の英語教室の本格的取り組みを継続する。

◇前期23名、後期(これから開催)の申し込みが33名で定員オーバーの状態。

☆6年生の受講生から受験者を出すことができ、生徒募集についても大きな貢献があった。

方針3 グローバル化を生き抜く人間力育成と学力の向上

総合評価：A/B (目標達成又は効果あり)

3-1. グローバル人材育成プログラムの見直しと充実

◇グローバル関係のプログラムの実施状況は以下の通り

- ・アメリカ（ボストン）語学研修 22名（中3・3名、高1・12名、高2・7名）・オーストラリア交流校研修 2名
- ・エンパワメント・プログラム 37名（中3・7名、高1・15名、高2・15名）
- ・セブ島集中語学研修 21名
- ・長期留学・海外進学 高1 なし、高2 2名
- ・スピーチコンテスト 県中学 弁論 1位 金田仁愛、Good prize 3名
県高校 国内スピーチ2位 池田彩、
レシテーション3位 今井花香
- ・ディベートコンテスト 第10回ウィンターカップ 16位（42チーム中）
県高校生英語ディベート 4位（20チーム中）
- ・グローバルイングリッシュキャンプ（TCUとの協力）→ コロナの影響で中止
18名（中3 1名、高1 11名、高2 6名）
- ・ICU 高校や軽井沢アイザック校との生徒交流可能性を検討する。

年度末は新型コロナウイルス流行対応のため、検討進まず。

☆これまでプログラムもかなり精選されており、業者企画のプログラムが多いこともあり、現状ではさほどの負担感はない。これに ICU 高校や軽井沢アイザックとの生徒交流を加えることは可能ではある。（英語科専任教諭の授業持ち時間を現状程度にとどめておいていただければ。）

☆グローバルイングリッシュキャンプは中島利恵子先生と TCU とで開発したものであり、自前のプログラムである。内容も充実しており、意義深いプログラムかと思うが、特定の教師（中島先生）に大きな負担がかかるようになってきている。ご本人次第の部分もあるが、このようなプログラムを継続実施できるのかどうか疑問が残る。

☆スピーチコンテストの指導者は現状中島利恵子先生のみで、かなりの負担がかかっている。後進の育成が待たれるところである。

☆次年度のボストン研修の期間を短縮、定員も半減させた。ホストファミリーの対応の善し悪しのばらつきを無くし、生徒一人あたりの体験の質を確保する。また、引率教員の負担を減らす意味もある。現状のプログラムを随時改良中である。

3-2. 2020年度の大学入試改革に向けたカリキュラムづくり、アクティブ・ラーニング型授業の進展を検討・実施する。

◇土曜日対応の作業に追われ、カリキュラムづくりの作業は進められていない。アクティブ・ラーニングに関しては組織的な対応はしていないが、各教員が意識して授業するように促している。

☆教科の中に「総合科」を設置し、「総合的探究の時間」をより強化する土台を創った。

3-3. ICT 教育体制の強化を図る

◇Classi・・・6学年で導入

ボランティア、オープンキャンパスなどの諸活動の記録をする「ポートフォリオ」の

作成を高1、高2中心に行っている。(新入試対策) 授業や行事に関する連絡ツールとしても活用し、生徒に親しむ機会を与えている。「生徒カルテ」の機能を進路指導に活用している。模試の結果の履歴や、志望校、ポートフォリオが確認できる。

◇スタディサプリ・・・今年度の高1(71期)から全体で導入している。

到達度テストを年2回実施。絶対評価型のテストで弱点発見に有効。個々人の弱点項目を優先的に宿題を配信している。個々の習熟度に応じて授業動画を見ることができ少数の生徒ながらマイペースで学習を進めている。

☆スタディサプリの実施学年(高1)では手応えあり、2020年度は新高2以下中1までの学年でスタディサプリを導入する。それに伴い、Classiは新高3と新高2以外の学年では利用しないこととする。スタディサプリにもポートフォリオ機能があるため、今後はClassiなしでスタディサプリに一本化する。

参考：結果的に休校措置にともない高3でも急遽スタディサプリ導入となる。

更に、平時の段階でGoogle for Education等もっと進めておきたかったという反省あり。

3-4. 基礎学力および大学進学実績の向上

①英・数・国の強化として補習の充実、数学ゼミ合宿、英語教育の高度化と英検(中学3級～準2級、高校2級～準1級)取得率拡大

◇補習は主要3教科で適宜実施。数学ゼミ合宿は未実施。

☆英検取得

中学	3級取得者	中1	14名	中2	45名	中3	119名
	準2級	中1	5名	中2	7名	中3	28名
	2級	中1	2名	中2	1名	中3	3名
	準1級	中1	1名	中2	1名	中3	0名

高校 統計なし

②「指定校推薦の生徒の実力向上」と「一般受験生の受験学力向上」を図り、同志社、GMARCHに加えて、特に重点校として群馬大、慶応、青山学院対策を実施し、戦略的に大学進学率の向上を図る。

◇群馬大、慶応、青山学院対策としては特にしていない。今年度、AO入試にて慶応大学総合施策学部に1名(陸上部の生徒)合格。

☆AO・推薦に向けた早めの対策、志望理由書添削や面接指導がある程度効果はあった。例年に比べ進路未定者が減少した(安定志向の結果、指定校が増えただけという見方もあるが、...)。結果として、少数ではあるが一般入試で群馬大、慶応、ICU、青山学院、明治、法政、東京理科大の合格者が出た。(粘り強い個別指導、文系では英語力向上の効果とも言える)

③「寒梅チーム」として、様々な社会問題を生徒に考えさせる契機とするため、月1回程度のスタディ・ツアー、講演会、ワークショップ等を計画し、大学入試改革対応に備

える。

◇スタディツアー・・・有志が外部の機関・施設などに出かけての特別学習活動

- ・大学見学 立教大学&明治学院大学 5/27(月)(生徒15人、教職員2人)
- ・「外務省&ワークショップ」5/28(火)(生徒13人、教職員2人)
- ・「JICA&国連大学」7/16(火)(生徒16人、教員2人)
- ・「グローバルフェスタ2019」9/28(土)(生徒10人、教員2人)
- ・「ハンセン病と人権(栗生楽泉園)」10/4(金)(生徒10人、教職員3人)
- ・「重粒子線治療施設(群大)」10/5(土)(生徒16人、教職員2人)
- ・「多文化共生(モスク見学)・伊勢崎市役所見学」10/7(月)(生徒16人、教職員2人)
- ・「戦争と平和(無言館、松代象山地下壕)」11/9(土)予定(生徒6人、教職員3人)
- ・大学見学 筑波大学 (生徒17人、教職員2人) ※櫻井先生担当
- ・「鈴木助産院見学」12/19(木)(生徒10人、教職員2人)

◇「ユニクロ 服のチカラ プロジェクト」・・・衣服の提供での国際支援の実践

- ・「国内難民問題学習会」6/28(金)
- ・「海外難民問題学習会」7/17(水) 33人
- ・子ども服の仕分け、梱包作業 10/3(木)

◇「看護医療系講座」・・・外部講師を呼んでの講座

- ・「出産体験の意味づけと心理的ケア」5/7(火) 33人
- ・「日々の活動(作業)と健康」5/15(水) 38人
- ・「安楽死」5/27(月) 72人
- ・「いま、求められるケアとは」6/7(金) 23人
- ・「出生前診断」6/11(火) 19人
- ・「災害看護」6/12(水) 13人
- ・「臓器移植」7/9(火) 65人
- ・「ハンセン病」7/18(木) 14人
- ・「群馬大学重粒子線がん治療」9/18(水) 13人
- ・「アサーション・トレーニング」10/8(火) 30人
- ・「保健師の仕事」1/31(金) 10人

◇「経済・経営学講座」・・・外部講師を呼んでの講座

- ・「食べ放題は本当に得か? 経済学で考える」10/31(木) 25人
- ・「人と人が出会うとき、組織の問題が生まれる」12/3(火) 予定23人

3-5. 進路指導の充実

①「夢ナビライブ」や各種体験学習の充実

- ◇「夢ナビライブ2019」(大学紹介、模擬講義) 6/8(土)

高1全員（220人）参加

模擬講義や各学問分野についての説明、大学の説明に参加し、良い進路学習の機会となった。

- ② ICTの活用として、ベネッセの「Classi」を利用したe-ポートフォリオの対応を図り、生徒一人一人に応じたキャリア・カウンセリング体制を強化し、2020年度からの大学新テストにも備える。

◇ 3-3①を参照のこと。

- ③ 先輩の大学生による「白熱教室」を動機づけ授業として継続。

◇ 9/21（土）3，4限にて実施。対象は中3から高2まで。

3-6. 全国的に先進でユニークな「プログラミング教育」の継続と発展。

◇ 中1でプログラム体験、中2で実用レベルプログラミング作成、中3でチーム編成によるアプリ開発とアプリコンテストへの出品・入賞を狙い、全国的にも特色あるトップレベルを目指していく。

- ・ 中1 プログラミング言語「スクラッチ」を習得。
- ・ 中2 「キータッチ」ソフトの使用をし、センサーを作動させる練習をする。
- ・ 中3 プログラム作成。コンテスト用のプレゼンテーション資料の作成。

コンテスト応募

中1から段階的に学習し、その集大成としてアプリコンテストに応募する。

☆ アプリコンテスト結果

① 信州未来アプリコンテスト ZERO

主催・・・長野県、信越情報通信懇談会、信州大学

結果・・・NTT docomo 賞 授賞

② 群馬プログラミングアワード

主催・・・上毛新聞社

結果・・・新型コロナの影響で中止

3-7. 探求学習や理系の強化

- ① 理科実験の増加による興味の喚起

◇ 実験の増加については教科で検討中。

- ② 課外の理科特別授業の充実として、科学研究実践活動プログラムの推進、自動車をテーマに主体的・協働的に学ぶ力をつける「七五三太ゼミ」の活用、ロボット作成プログラムの拡大等、探求学習や理系教育の充実・強化を進める

◇ 「七五三太ゼミ」中高教育に関しては特に実施せず。

☆ ロボットの大会で全国大会進出し、理科研究発表会では高文連会長賞を受賞できた。

3-8. 教育環境、教育施設の充実と活用

- ① 2016年度に新教務棟が完成し、教職員の居住・教務環境が大幅に改善された中で、生徒相談コーナーにおける「師は我が友、友はわが師」の懇切丁寧な指導をさらに進め

る。

◇教務棟生徒相談コーナーは多く利用されている。

- ②ラーニング・コモンズが新設され、電子黒板も設置されて来ている中、ICT 活用の授業を採り入れ、アクティブ・ラーニング授業の更なる推進を図る。さらに、各教科の ICT 機材充実を図り、携帯プロジェクター、モバイルコンピュータを、各教科に順次購入していく。英語教科では、スピーキングテスト用に、IC レコーダーを 50 台備える。

◇ラーニングコモンズは英語科を中心に積極的に利用されている。

◇モバイルPC 英語科 2 台、数学科 1 台、体育科 1 台購入

◇モバイルプロジェクタ 英語科 4 台、数学科 1 台、社会科 1 台、視聴覚 1 台購入。

◇ICレコーダーは未購入。

☆モバイルPC、モバイルプロジェクタを来年度に向け増設を計画した。

- ③2018年4月には、「人工芝サッカー場と全天候型陸上競技場」が第2グラウンドに完成した。サッカーや陸上を通じた地域連携の活動、生徒募集を、強力にアピールして、活用していく。

◇陸上部

- ・安中市小学生対象陸上競技教室 11回開催
- ・Nスタチャレンジ記録会 年4回実施（上半期 2回）
- ・練習体験会、見学会 年7回実施

◇サッカー部

- ・小学生対象「少年サッカースクール」 月3回実施
- ・少年サッカー大会「新島学園理事長杯」（3月）、「新藤二郎杯」（8月）「新島学園フェスティバル」（10月）実施

☆・安中市中体連、群馬県高体連の公式戦に加え、群馬県サッカー協会の公式戦会場としても提供できた。

- ・「新島学園フットボールクラブ（仮称）」設立にむけて計画・立案開始
- ・中学・高校生徒募集のための練習会を中学5回、高校6回実施。高校入試の生徒募集に大きく貢献できた。
- ・各種トレーニング講習会を3回実施。練習の質向上を目指した。

- ④部活動室の建て替えは、第3次中期計画から持越した課題であり、地震対策、生徒募集の観点からも、4次中期計画の中で予算化、実行したい。

◇懸案事項として検討中。

- ⑤自習室の整備も、基礎学力と受験学力の向上の環境整備として推進する。

◇進路指導室の赤本（大学入試過去問題集）を学習室1、2に移し整理した

- ⑥バリアフリー化は、南校舎に新たなエレベーターの設置が2018年2月末に完成したが、バリアフリー化のグランドデザインに沿って、推進を継続する。

◇南校舎のエレベーターは、学園祭、オープンスクールなどでご年配の方を中心に積極的に利用されている。これから新たな建物を建設する際には必ずバリアフリー化を考

慮していく。

方針4. 教職員の7つの能力の育成と『やりがい』の発見による力量の発揮

総合評価：B / C (効果不十分)

昨年の刑事事件の発生により、生徒たちの心身のケアをするために、先生方は疲弊してしまった。そのため、先生方自身のやりがいの発見まで至らなかった。

しかしながら、先生方は精一杯努力してくださった。

また、コロナウイルス感染により休校が続き、十分力を発揮できなかった。

この中でも、遠隔授業の準備など良くやってくださったと思う。

このような時だからこそ、みんなで力を合わせて乗り切ることが勘甚。

4-1. 新島学園に奉職している意味の再認識

①新島学園のキリスト教教育の歴史・文化を理解し、日々の業務において積極的にその教えを学びの中に実践していく

◇6月に起こった事件とその対応の影響が大きく、一般的に施策を実施することが難しかった。

☆次年度の新任教員研修のスケジュールを作成し、この点の徹底を図った。

4-2. 7つの能力の必要性認識と研修計画の実施

*7つの望まれる能力→①指導力、②授業力、③コミュニケーション力、④イノベーション力、⑤計画力、⑥実行力、⑦顧客志向力

◇特別な研修は行わなかったが、日々の業務の中で研究、指導を行っている。

4-3. 教職員の「やりがい」の醸成

①「自己申告」に基づく全教師面談で、教師の「やりがい」を助成。

◇昨年度までは一部の教員しか校長面談がなかったが今年度全教員の面談を行った。

☆校長面談は行ったが、自己申告書の基づく振り返りまで至らなかった。

②教師の提案を奨励、重視、共有化し、中期計画実行の原動力として用い、「人・モノ・金」のバックアップを可能な限り行う。

◇新しい提案を起こすよりも、現状への対応に時間が割かれた。

③部長、学年主任、教科主任の視野の拡大を図り、権限を可能な限り移譲する体制としくみ作りをさらに推進する。

◇事件をきっかけに今までより広い視野で物事を考えさせられた。

4-4. 生徒指導力と授業力の向上

①新任、若手教職員の要望アンケートも用い研修計画策定し実施する。

☆事件への対応、後半はコロナウイルス対応に時間をとられ実施できず。

②中堅以上は、自ら適切な外部研修に参加し、自己研鑽に励む。

◇各自必要だと思う研修に申し込み、参加している。

◇県総合教育センターの研修には11名（のべ31名）が参加。

- ③授業アンケート調査を新しい切り口で分析し、教科別、学年別でチームとして改善案を検討し効果を挙げる。

☆事件への対応、後半はコロナウイルス対応に時間をとられ実施できず。

- ④生徒を「やる気にさせる」工夫と言動を研修し、生徒への動機づけ機会の提供を図る。

◇特別な研修は行わなかったが、日々の業務の中で研究、指導を行っている。

4-5. 新学習指導要領の研修と対応の準備

- ①新カリキュラム委員会を中心に、月1回の検討会を実施。

☆土曜日の使い方対応に時間が割かれ、実施できなかった。

☆土曜日を生徒は休校にすることを決定。31単位の新カリキュラムを作成した。

4-6. 教職員の働き方改善

- ①土曜日の使い方改革の実施

☆土曜日を生徒休日、教員は自宅勤務とすることに決定。2020年度より実施。

- ②N○部活DayとN○残業Dayの導入検討・実施

☆土曜日を自宅勤務とすることを決定したが、ここまで検討はできなかった。

- ③教職員教務業務の簡略化、簡素化の検討

◇各校務分掌の業務内容把握のため、アンケートを実施。（10月）

☆アンケートを元に、校務分掌を割り振った。

- ④ストレスチェックとカンセリング、メンタルケアの充実

◇10月にストレスチェック実施

☆衛生委員会で結果を検討。必要な対応を行った。

- ⑤部活動外部指導者の導入の検討

☆一部のクラブで先行実施。謝礼に関して学校側のPTAへの連絡が不徹底で混乱した。最終的にPTAに資金援助してもらい、外部指導員に活躍してもらった。

☆次年度に向け、外部指導員の新制度の作成に取り組んだ。

、全体の大枠で240万円までの経済的支援を行うことを決める。

方針5. 関係者、関係機関との信頼関係を高め、助言、協力、支援を学園の発展に繋げる

総合評価：C（効果不十分）

昨年の刑事事件発生により、生徒及び保護者の信頼を失う。第三者委員会の提言を頂き改革委員会を発足させ信頼回復に全力を尽くす。

5-1. アンケート調査による保護者、生徒の満足度や要望を把握し、対応

☆実施できず。

5-2. 保護者、同窓会との情報交換・相互理解の充実と支援の獲得

- ◇事件の件もあり、保護者会、同窓会との情報交換は通常以上に行った。
- ◇PTA活動においては通常の活動はこれまで以上に積極的に保護者の参加があった。
球技大会支援 2017年度36名、2018年度34名、2019年度38名
- ☆部活動外部指導員の資金援助に関して、学校側からPTAへの連絡ができておらず、混乱を招いた。最終的にPTAのご支援をいただけた。
- ☆事件に関しての「第三者委員会報告書の骨子」「学校側のこれからの取り組み」をPTA及び同窓会に年度内に回覧することができた。

5-3. 安中市との関係強化を図る企画の策定と実施

- ◇旧中山道ウォーク(10/26)での家庭科部のクッキー配布、管楽アンサンブル部の演奏など、安中市と上毛新聞の求めに応じての奉仕活動、協力活動を行った。こちらから提案する形での企画の策定までは達していない。

方針6. 安心・安全な環境整備

総合評価 C (効果不十分)

教員の危機管理・リスク管理・情報管理すべてが不十分であった。
改革委員会において、見直し及び改善を速やかに図る。

6-1. 「いじめ」「行き過ぎた生徒指導」等に対する感度を高め、適切な対応を事前にとれるようにしていく。

- ◇特別な研修は行わなかったが、生徒指導上大変大きな問題であるため、日々の業務の中で研究、指導を継続して行っている。
- ☆いじめ調査を予定通り実施した。特に2回目は新型コロナウイルス流行対応により休校中であったが、登校日に提出してもらい実施した。困難な状況ではあったが、生徒の申し出に対して対応を行った。
- ☆いじめ防止対策委員会を実施。高校1年生の案件に対応した。新型コロナウイルス流行対応の休校期間に入り当該生徒も登校しなくなったため、現在は対応停止中。

6-2. 「スマホの安全な使い方教育」を保護者との連携で徹底する。

- ◇「情報モラル教育」を中学生に向け実施。6/13(木)

6-3. ストレスチェックの実施と教職員の健全な勤務・健康相談支援

- ◇ストレスチェックを10月に実施。
- ☆ストレスチェックの結果を衛生委員会で検討。必要な対応を行った。
- ☆11月には希望者へのインフルエンザワクチン接種および校医による健康相談を実施した。
- ☆教職員の健康診断、人間ドックを予定通り実施した。

6-4. 教員の危機管理能力の育成。リスク管理規定に則り、AED講習、緊急時対応講習、災害対応訓練等を怠らない。

◇10/21(月) 学校法人同志社 法人事務部長 柳井氏による「コンプライアンス研修会」を実施。

◇AED講習会を11月に予定。

◇避難訓練を4/26(金)、11/6(水)に実施。

特に11/6は昨今危機が迫っている「洪水」時を想定し実施した。

☆電話受信のメモの裏に緊急時の確認事項を記載し、誰でも一報を受けた際に適切な行動ができるように備えた。

☆生徒の自転車事故が発生した際の連絡に不備があった。

6-5. 施設、物品管理および、個人情報、情報機器管理体制を見直し、改善を図っていく。

◇インターネット、メールサーバーにSSL証明の導入(送信データの暗号化)

☆情報機器の一括管理システムとして、SKYSEA Client Viewを導入した。具体的な運用方法は検討中である。

6-6. 特別支援生徒への対応力強化を図る。

◇事件の後、当該学年の全生徒の面談を実施するなどスクールカウンセラーを増員(西部教育事務所に派遣していただいた)して対応した。その関係で、特別支援対象の生徒のケース会議を実施することができなかった。

◇自習室を運営し不登校の生徒の対応をしてきたが、これも事件の影響で頻繁な声かけなどの十分なケアができなかった。

☆3学期になってケース会議を実施した。生徒のケアを考えると時期的に遅すぎた。

☆年度の変わり目で、自習室を常時使用していた生徒が教室に復帰することができた。

評価の基準について

A・・・効果大

B・・・目標達成、もしくは効果あり

C・・・効果不十分

D・・・実実施・未着手

E・・・継続実施